

地域おこし協力隊活動実績報告書

隊員氏名： 永尾 俊晴

- ・活動期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
(委嘱日：令和4年9月1日)

1. 隊員の活動テーマ

活動テーマ	定住促進 ※共通
より具体的なミッション	地域資源の付加価値向上 1. 地域資源を生かした商品の開発 2. 地域資源のPR

2. 活動の検証

(1) 定住促進への直接的効果

移住等の相談を受けた件数	3件 (4人)
移住希望者に現地案内などの活動を行った件数	2件 (2人)
うち移住につながった人数	件 (人)
うち移住につながる可能性のある人数	2件 (2人)
具体的な相談の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・元地域おこし協力隊員の紹介で、美山町で就農を希望する20代女性より、住居および仕事についての相談を受けた。美山町内の事業者経由で、物件と畑が無事見付き、2024年春より就農および移住予定。(1人) ・京都市内から通いながら、美山町内の事業者のもとで大工仕事を行う20代男性より、美山町内での住居についての相談を受け、現在も候補となる物件を探している。(1人) ・定住促進サポートセンター経由の相談者で、美山町へサテライトオフィスの開設を検討している大阪の事業者様より、具体的な美山の暮らしや生活環境についてのインタビューを受けた。インタビュー後は、具体的な物件についての相談も含め、定住促進サポートセンターへ引き継ぎを行った。(2人)

<p>今後の展開や展望または反省点など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、南丹市外の方々に美山町を案内する機会も多く、案内後は、里山の暮らしに魅力を感じ、いつか移住してみたいという声を多く聴くことができた。 ・個人の移住だけでなく、市内で事業を行いたいと考える事業者や団体より美山の暮らしや働き方について、相談を受けることが多かった。 ・共通の課題として、市内に賃貸物件が少ないことがあげられる。自前での古民家改修や拠点づくりに興味があるという声も少なくないので、相談者の希望とマッチするような物件の紹介ができるように、継続的な情報収集と地域内での関係性構築が必要だと考えている。
-------------------------	---

(2) 具体的な活動について

<p>活動を展開した地域数と名称</p>	<p>地 域 数：10地域 地域の名称：(美山町安掛、美山町中、美山町豊郷、美山町下、美山町棚、美山町内久保、美山町板橋、美山町下吉田、美山町北、八木町吉富)</p>
<p>移住者受け入れや地域振興への意識が高まったと思われる地域数と名称</p>	<p>地 域 数：4地域 地域の名称：(美山町安掛、美山町中、美山町豊郷、美山町下) ※具体的な新商品企画に繋がった地域資源がある地域</p>
<p>今後継続的なアプローチにより意識が高まる見込みの地域数と名称</p>	<p>地 域 数：10地域 地域の名称：(美山町安掛、美山町中、美山町豊郷、美山町下、美山町棚、美山町内久保、美山町板橋、美山町下吉田、美山町北、八木町吉富)</p>

活動内容	現在の課題	期待する成果・展望
<p>地域資源を活用した新商品企画 (美山町安掛「みやま堂」を商品企画拠点として活用)(美山町中:里山弁当)(美山町豊郷:しめ縄商品、桑の葉茶)(美山町下:さつまいも菓子、美山木炭商品)(美山町棚:大豆菓子)(美山町内久保:美山山椒商品)(美山町北:米粉商品、黒豆珈琲)</p>	<p>新商品企画においては、コスト面や目標設定について、作り手とより協議の場を増やししながら、推進していく時間が必要。商品開発後の中長期的な課題としては、原料生産および加工の後継者育成を考慮した、継続的な生産計画の策定があげられる。</p>	<p>南丹市の現在活用されていない地域資源を加工・商品化することで、地域に潜在的にある魅力的な文化や特産が、若い世代に持続可能な形で引き継がれていく流れをつくること。</p>

活動内容	現在の課題	期待する成果・展望
<p>地域資源を活用した商品の、販売促進計画・SNSなどを通じたPR活動</p> <p>(美山町安掛：野草茶、蜂蜜、美山牛乳)(美山町豊郷：黒米商品、さんけらもち・ほうばめし等の郷土食) (美山町下吉田：味噌)(美山町板橋：柚子胡椒)(美山町内久保：ブルーベリー商品)(八木町吉富：塩糰) (美山町北：そば茶)</p>	<p>地域外の販売事業者へ紹介した際の、生産予定数量と販売希望数量のミスマッチ。また、販路に合わせた賞味期限やパッケージデザインなどのニーズへの対応が求められる。</p>	<p>より多くの地域内外の消費者に商品の魅力を知り、体験していただくことで、地域全体の知名度向上や地域資源についての理解が深まること。</p>

3. 活動表

活動年	実績・効果、目標
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ・目標「地域資源と地域活動への理解を深め、多くの事業者と知り合う」 ・活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・南丹市にどのような地域資源があるか、集落支援員や振興会のご協力をいただきながら、買い物・ヒアリング調査を行った。 ・声が上がった地域資源についての活用方法を考案した。 ・最初の商品企画として、美山町内下集落等で栽培される「さつまいも」と美山町内久保集落の「美山山椒」を組み合わせた“京都美山かやぶきけんぴ 美山山椒”などの商品開発を実施。 ・その他にも、美山町鶴ヶ岡特産の黒米餅・とち餅を、美山町下の美山木炭で焼きもちにして販売する「里のごほうびぜんざい」、美山町中村の弁当店と市内の素材を使用した季節替わりの「里のごほうび弁当」など、商品企画およびテスト販売を行った。
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・目標「地域資源を活用した商品のPR、および新商品企画の促進」 ・活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・美山町安掛に立ち上げた「みやま堂」を商品企画拠点として活用しながら、作り手と相談を重ね、下記のように各地の地域資源を活かした商品企画を行った。(美山町中村:里山弁当)(美山町豊郷：しめ縄商品、桑の葉茶)(美山町下：さつまいも菓子、美山木炭商品)(美山町棚：大豆菓子)(美山町内久保：美山山椒商品)(美山町北村：米粉商品、黒豆珈琲) ・商品開発した商品および地域事業者の既成商品を、プロのカメラマンに撮影いただいた生産風景とともに、SNS等を通して情報発信。さらに、東京と大阪のバイヤー向けの展示会への出展や、京都市内店舗でのイベント出展を行い、販路開拓につながるような人脈形成、およびPRを行った。

活動年	実績・効果、目標
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・目標「地域資源を活用した地域の名物商品が、より多くの地域から生まれ、各地域内での地域資源生産活動が活発な状態をつくる」 ・活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる新商品企画および商品のリニューアルを南丹市各地域で展開。観光客が各地域の名物を体験する機会をつくる。 ・各資源および商品生産の後継者育成も視野に入れた移住者の呼び込みを行えるように、商品生産加工の工程の見直しを行う。
任期後に得たい成果・変化（自分自身・地域・関係者）	<ul style="list-style-type: none"> ・南丹市内に存在する地域資源の本質的な価値や魅力に、市内外の若い世代が積極的に興味を持ち、関わっていくまでの道筋ができる。 ・地域内外で地域資源の消費量が向上。地域資源を目的に来訪する観光客が増える。 ・地域資源を活用した新商品を地域の事業者とともに企画し、販売先とのマッチングも行っていくことで、地域商社のようなビジネスとして自立させたい。